

清流ニューズ

発行所 八王子市子安町 1-22-25
清流寺
清流ニューズ編集室
電話(042)646-0287(代)
FAX(042)644-1164

平成二十五年 度 総 祈 願
日序上人御十七回忌報恩御奉公成就
教化必成教務員増加報恩御有志目標達成完納成就
羽村別院 改修成就之御願
佛立菩薩増加 助行運動推進
役中後継者養成 法灯相續促進

四月の御総講日

一日	十時	御修行日
七日	十時	バスデー総講 日序上人報恩祈念
十三日	十時	高祖御命日
十七日	十時	開導御命日
廿五日	十時	門祖御命日
十二日	十時	高祖御速夜
十六日	十時	開導御速夜
廿四日	十時	門祖御速夜
三十日	十時	歡尊御命日

於 羽 村 別 院

特別行事

廿七日 門祖日隆聖人
五五〇回御遠諱大法要
当山より回参

十三日 日蓮大士立教開宗記念日
教化必成一万遍口唱会

會議
一日 御総講後 役中會議
廿一日 午後三時 参事会
廿五日 御総講後 教区長會議

東日本大震災三回忌に

御講有山内日開上人より

ご諭達が発せられました

ご諭達

東日本大震災により殉難された方々の第三回忌を迎えるに当り、所懐の一端を申し述べます。

一昨年の三月十一日に発生した大地震以来、大津波と原発事故の被害に遭われた地域に対し、国を挙げて復興の取り組みは進められていますが、未だ終熄の兆しが見えない状況にあります。

宗門では、震災直後に対策本部を設置し、被災地の各県庁と日本赤十字社に

寄付をし、宗内に呼びかけ救援物資の調達と義援金を歓募し、お送りしました。

また、現地への救護活動を行うと共に殉難者のご回向を各地で勤め、さらに弘通支援プロジェクトを開始し、財的、物的支援を継続し、現在に至っておりますが、未だ十分とは申せませんが、今後、宗門では、震災対策の委員会を新たに設置し、なお一層の支援を続けてまいります。

私自身、阪神淡路大震災で被災した経験があり、被

災者の方がたのご苦勞を思うと胸が痛みます。被災地に安心して暮らせる日が必ず訪れることを信じ、一日も早い復旧を祈っております。大震災からの復興は、日本だけでなく世界の人びとに希望と安心をもたらすでしょう。

また、日本の国土は自然の猛威を受けやすく、四方を海に囲まれ、地震や津波は、どこでも起こる可能性があります。

大震災以降にも各地で発生した諸々の災害は、決してひと事ではありませぬ。我ら佛立教講は力を合わせ、さらなる支援活動に立ち上がりねばなりません。

ご一同には、災害復興の祈願口唱になお一層お励

門祖日隆聖人

五五〇回御遠諱記念大法要
四月廿七日 第三座に参詣

いよいよ待ちに待った門祖日隆聖人五五〇回御遠諱記念大法要が、来る廿七日より廿九日迄の三日間に亘り、合計十六座奉修されます。

全国、海外からも大多数の参詣者が本山宥清寺にご参詣させていただきます。

当山は、廿七日の第一日目の第三座午前十一時の座へのご参詣です。

新幹線組とバス組とに分かれての参詣です。

新幹線組は、廿六日の出発で、その日に京都宿泊、又バス利用組は廿六日の夜出発して翌廿七日に参詣し、途中、名古屋までもどり宿泊です。

朝参詣強調週間

四月二日〜六日
第二連合担当

四月の朝参詣強調週間の当番連合は第二連合の各教区で日野、立川、大和、国立、京王教区です。

四月二日(火) 日野教区
三日(水) 立川教区
四日(木) 大和教区
五日(金) 国立教区
六日(土) 京王教区

日蓮大士立教開宗記念日 教化必成一万遍口唱会

四月廿八日は、高祖大士の立教開宗記念日です。

当山は、毎年この日に教化必成一万遍口唱会を行っておりますが、本年は、ご存知のとおり、門祖聖人五五〇回御遠諱記念大法要が奉修される関係上、廿八日の当日には口唱会ができませんので、繰り上げて十三日の御命日総講日に口唱会を実施することになりました。



本月の御妙判

色 読

法華經を余人のよみ候は口ばかり。言ばかり読めども心はよまず、心は読めども身によまず色心二法共にあそばされたるこそ責く候へ。(土籠御書695)

是は日蓮聖人が佐渡へ出發される前日に土牢の中に幽閉せられていた日朗等五人のお弟子に与えられたお手紙の一

節であります。

お祖師様はあらゆる迫害の中に於て其の信仰を一貫せられたのですが、お弟子に対しても、あらゆる困難に堪えて信仰を貫かねばならぬという教誡を与えておられました。が、文永五年十月に諸宗の僧等との対論を幕府に対して要

求せられた際、「定めて日蓮下弟子檀那ト流罪死罪一定ナランノミ。少シモ之ニ驚クコトナカレ。方々へ強言申スニ及バズ。是レ併シ乍ラ強毒ノ故ナリ。日蓮庶幾セシムル所ニ候。各々用心有ル可シ。少シモ妻子眷属ヲ憶フコトナカレ。権威ヲ恐ルルコトナカレ。今度生死ノ縛ヲ切テ仏果ヲ遂ゲシメ給ヘ。」と、弟子檀那に申し渡されたわけが日朗等は此の教訓を身に体し法華經のために尽くしたので土牢の中に閉じ込め

られることになったのです。

信仰が強かったものでこういうことになったわけで、その強いというのは、口先だけで法華經を読んでも心に信じなければ意味がありません。たいていの人は「口バカリ」であつて心によまなければダメで、タトへ心に読んでも「実行しなければ何にもなりません。」この「実行する」というのを「色読」と申すので法華經は心読色読でなければなりません。

「仏滅度ノ後二惡世ノ中ニ於テ、暫クモ此經ヲ説ン。是

則チ難シトナス。」(宝塔品)と説かれてあります。その難しいという色読を貫いたのが日朗菩薩で、宿屋光則の邸の裏手にあつた土牢でヒタスラ師匠の身を案じている姿をみて、光則は感動して、後に信者となりその邸は今、光則寺として残っています。

口だけでは不可。心に読んでも不十分。御題目は口で唱え、心に決定し、菩薩行を実践するというのが、色読というもので「色読」しなければならぬという事でありませぬ。

日序上人御十七回忌報恩、奉公御有志奉納者氏名(その四十二)(教区順。敬称略。順不同)
二十五年三月十七日現在
合計七〇六名、一、四二四口